西陵中学校だより

平成 23 年 10 月 7 日(金) 2 3年度 第2 0号

学校 HPアドレス http://www.yokkaichi.ed.jp/seiryo

生徒会による挨拶運動、頑張っています。

10月3日(月)、4日(火)の2日間、早朝より生徒会本部による朝の挨拶運動が行われました。 前回は 1,2年生昇降口前での取り組みでしたが今回は 正門に立って、「おはようございます。」 と元気よく登校してくる人たちに挨拶してくれている姿が印象的でした。

一日の始まりが、気持ちよい 挨拶で始まることで、その日一日が締まった感じで生活できるように思えるのですが。 挨拶運動の様子を、私も見せていただきましたが、自転車を走らせてきた人たちも 挨拶を返し、ついでに私の姿にも気づき、 気持ちよく挨拶をしてくれたのは本当にうれしかったです。 挨拶もそうですが、もうひとつ是非守ってほしいことがあります。それは交通マナーです。 本当に一部の人だと思いますが、自転車の乗り方が悪い、と先日も苦情をいただきました。みなさんの 気持ちのいい挨拶の交換をみていると、なおさら事故に気をつけて無事に登下校をしてほしいと祈らざるを得ません。 危ない運転をしている人、命は一つ。 事故が起きてからでは取り返しはつきません。 自身の自転車の乗り方を振り返り、そういえば昨日は危なかったな、と気になる人は、今日から自分を変える時です。 一人ひとりがぜひ、考えてほしいと思います。





通学路交通安全施設整備事業について

四日市市教育委員会では、通学路の危険箇所での カーブミラー・ガードレール・側溝ふた などの設置や、横断歩道など路面表示の塗り直しなど小規模な交通安全施設の整備について、学校から要望を把握し、必要箇所の整備を行っています。通学路整備についてお気づきの点がありましたら本校までお知らせください。詳細については、教育委員会教育施設課(電話 354-8243)へお問い合わせください。ちなみに、この整備事業は前年度に要望を出し、次年度事業に着手する、といった年度をまたいでの取り組みとなっております。ですから本年度出された要望は、来年度の整備事業に組み込まれることになります。ただし出された要望全てが受け入れられるわけではありませんのでご了解願います。

本年度、本校では六名町集会所近くの内部川に架かる橋の両側の急な崖の部分に転落防止柵を取り付けていただくことになりました。小学校からも同様の要望が出されており、共通の要望ということで処理されたようです。







四日市市立西陵中学校能狂言鑑賞会を振り返って



先月の29日、午後の時間を使い、能狂言鑑賞会を実施しました。遠路、鎌倉から「鎌倉能舞台」の方たちに来校いただき、狂言と能を鑑賞する機会を得ました。多くの生徒の皆さんにとって、初めての体験だったと思われますがいかがでしたでしょうか。鑑賞後、皆さんには感想を書いていただきました。一部をここに紹介します。自身の感想と比べどうだったか確認するのも一つでしょう。

まった感じで生活できるように思えるのですが、 接接運動の様子を、

(1年生)

・今まで教科書などに載っている事ぐらいしか見たことないし、全く興味なかったです。それにもらった パンフレットでも台本でもよく分かりませんでした。でも能・狂言が始まると言っている言葉はよく分 からなくてもふんいきで泣いているところ、怒っているところ、笑っているところ、喜んでいるところ ・・・ほとんど全て分かりました。それで改めて演技ってすごいなと思いました。

「羽衣」も仮面の少し角度が変わっただけで悲しんでいるように見えたので驚きました。おどりもあまり見たことのないおどりだったので少し興味が出てきました。 見終わってからは能・狂言ってすごいなーと思いました。そして改めて日本の文化ってすごいなあと思いました。

・私の能・狂言のイメージはただ難しい言葉で芝居をするだけなのではないかというものでした。 しかし、江戸時代(?)から受け継がれる笛と軽快なたいこで作品を あきずに夢中になって見れました。 天女の美しい衣装やお面の上品さ、堂々とした役者さんの声には感激しました。 言葉を使わなくても 自らで想像し、能や狂言を見ながら話を進めていくというのは おもしろい文化だなあと初めて感じることができました。そして、あいさつをしっかり人の目を見てやりたいと思いました。 身近なようで そうでない貴重な日本の文化を改めて守っていくべきだと思いました。 また機会があれば見に行きた いと思います。

置や、機断歩道など格面表示の動り直しなど小規模な交通安全施設の整備について、学校から同(生争2)

- ・能や狂言は動きがゆっくりしているので分かりやすかったです。 言っていることはあまり分からなかったけど、動きなどでああ、なるほどって分かりました。 狂言では2人がかさなってしゃべるところがあったけど、相手につられずに言っていたのですごいと思いました。 狂言の最初一人でずっとしゃべっていたところで、一人でも大きな声を出して顔もビシッとしていたのですごいなあと思いました。 能では、最初何をしているのかあまり分からなかったけど、天女の表情や動き、服(羽衣をつけるとき)などのときに分かりました。狂言と能は初めて見たのですごくいいものを見れてよかったです。
- ・650年も前から続いている文化で、しかもその内容がほとんど変わらずに受け継がれてきているというのに驚きました。今回が実際に能・狂言を見るのが初めてだったので、授業のビデオで見たもの

よりも迫力があり、更に狂言は言葉は余り聞き取れなくても、仕草や行動で思わず笑ってしまったり、とても楽しい1時間半になったと思います。怒ったり、笑ったり、泣いたりの表現の仕方がとても独特で思わず笑いが出てしまったり、能の「羽衣」では天女の舞の時の演奏がすごくきれいで扇子を使って踊っている天女も音楽と一体化していて見ていて全く飽きず、むしろ見とれてしまいました。



機会があれば自分から足を運んでみようと思いました。(3年生の分は次号に掲載します。)